

平成 29 年度 第 2 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

岡田 公治 井沢 澄雄

2nd Activity Report, April 2017: Committee of Study Groups

Koji Okada Sumio Izawa

研究委員会では個別テーマ毎での研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 29 年 4 月 1 日現在の各研究会活動の予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会への参画を是非、お願いいたします。

1. 研究会構成の見直しについて

各研究会の更なる活性化を目指した研究会運営体制の見直しを行っています。

また、学会員の研究ニーズやシーズを捉えた研究会を新設していきたいと考えています。新設希望の研究テーマがありましたら、本報最後に記載の問合せ先アドレス（以下、研究委員会アドレス）までご連絡をお願いいたします。

なお、既存の各研究会とも新規メンバーを募集しております。ご興味をお持ちの方は、研究委員会アドレスまでお問合せください。

2. 各研究会の活動状況

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

（主査：横山 真一郎 東京都市大学）

本研究会は、QFD（Quality Function Deployment：品質機能展開）の考え方を援用することにより、情報の共有、知識の蓄積などを可能とする論理的なプロジェクト計画作成のための手法、方法論を検討することを目的に研究を行って来ました。最近では、QFD のみならず、プロジェクトにおける情報の定量化やシステム設計、さらにリスク分析など、QFD と関連の深い分野に関しても積極的に取り組んでいます。研究会の成果物は、研究発表会や国際会議において発表し、論文投稿を研究会員に奨励しています。現在は、プロジェクトの定量的管理を中心とした研究テーマでの議論を行っています。

<4 月以降の予定>

- 4 月 21 日：定例会開催予定
- 5 月 19 日：定例会開催予定
- 6 月 23 日：定例会開催予定
- 7 月 21 日：定例会開催予定

(2) リスク・マネジメント研究会（体制見直し中）

これまでプロジェクト事例を収集し、そこから

効果的なリスク・マネジメントの研修方法などを検討してきました。現在、検討テーマを一新すべく、議論を進めています。リスク・マネジメントに関する研究に興味をお持ちの方は、是非、ご参加の検討をお願いします。

<4 月以降の予定>

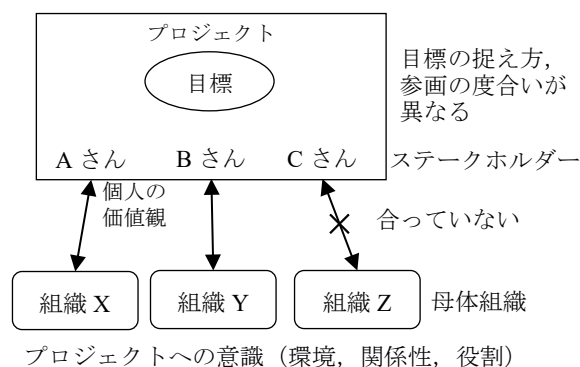
体制見直し、及び、検討テーマ再設定後に定例会の日程を確定し、ご案内いたします。

(3) PM 人材育成研究会

（主査：池田 修一 ポジティブ・ラーニング）

ステークホルダーについて継続して議論を行っており、これまでの研究会では実例に基づいたステークホルダーの研究を行ってきました。今回は、プロジェクトにかかわるステークホルダーの意識について議論を行いました（下図）。

プロジェクトに参画するステークホルダー



ステークホルダーは母体組織の代表としてプロジェクトの参画しているが、以下の 2 点によりプロジェクト目標の捉え方、プロジェクトの参画度合いが異なる。

① 組織側のプロジェクトへの意識

母体組織として、プロジェクトをどのように考えているかが組織によって異なる。組織としてプロジェクトに対して無関心、抵抗、賛同といった関与度が違う。例としては、システムの老

朽化対応プロジェクトは、業務側組織はシステムだけの移行には価値がないので興味を持たず、情報システム側組織が中心となる。

② 個人の価値観

母体組織の影響を受けたステークホルダーは、プロジェクトと母体組織の橋渡しとなるが、個人の価値観や考え方によってプロジェクトの参加意識が異なる。

上記のような状況下において、プロジェクトマネージャは参画するステークホルダーのモチベーションを上げるだけではなく、母体組織の環境に基づいた交渉を行うことにより、ステークホルダーの参画度合を上げてもらうような活動を行う。しかし、ステークホルダーと母体組織が合っていないかったり、ずれていたりすると調整を取るのかなり難しくなり、負荷も増える。

今後は「組織の価値観」と「個人の価値観」についての研究を行い、どのようにしたらずれを予防できるかについて議論していきます。

<4月以降の予定>

5月26日：定例会開催予定
(ステークホルダーの価値観1)

6月30日：定例会開催予定
(ステークホルダーの価値観2)

【詳細問合せ先】 pmcom2016@freeml.com

(4) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システム)

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として、毎月1回の定例会と年1回の国内外各地におけるワークショップを中心に活動しています。

メンタルヘルス不調に陥らない為にはどうしたら良いか。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。

定例会は原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。5名から10名程度のメンバーが参加し、プレゼンター(持ち回り)が議題を提示します。参加メンバーの対話を通して、メンタルヘルス問題の予防策となる知恵の創造を図ります。お気軽に体験参加してください。

<ホームページが新しくなりました！>

この紙面には書き切れていない「メンタルヘルスに対する想い」等を掲載しておりますのでホームページの方にも是非お立ち寄り下さい。

<https://www.spm-hq.jp/committee/kenkyu/?id=113>
(研究委員会のページです。)



3月15日の様子

<過去2か月の活動実績>

2月15日：定例会開催

- ① 『「残業ゼロ」の仕事力』(著者：吉越浩一郎、発行所：日本能率協会マネジメントセンター)をもとに議論しました。「作業にはデッドラインを設ける」「反省会を義務付ける」「残業は悪いことと認識する」などは、プロジェクトの成功や心の健康維持にもつながるものだと思います。「人生が長くなってきている。仕事人生が終わった後(定年後)の人生を充実させる為にも、現役時代から仕事以外の活動に時間を使っていくことが必要」と言った内容は、研究会活動を続ける私たちのエールと感じました。

3月15日：定例会開催

- ① 健康で生産性・創造性の高い脳の使い方
規則正しく、会社以外でのコミュニティでも活動ができる時間の使い方が、労働者にとっても会社にとっても満足できる状態なのではないかという議論をしました。
- ② 「過労による精神疾患でワースト1、IT業界が変われない理由」
2017年2月28日の日経コンピュータの記事について議論しました。「顧客先常駐で長時間労働の常態化」「期待されるスキルと作業スキル差」についての分析に対しては、IT業界で働いた持つメンバーにとってはある程度納得できる内容であるものの、顧客との関係性からすぐに改善することは難しいのではないかという意見もありました。
- ③ 「メンタルヘルス2事例を元にした勉強会」
多くのプロジェクトの中で、メンタル不調によって十分に戦力として活躍できないメンバーが出てしまうことがあります。そのような場合、予防的に／発生後などそれぞれのフェーズで上司／同僚は何かができるのか、事例をもとに議論しました。

一方、(厳しいようですが) 不調者本人も職業に従事する者としての自覚を持ち、職業人として自立できるように努める義務があるという意見もありました。

<4月以降の予定>

4月19日：定例会開催予定
5月17日：定例会開催予定
6月21日：定例会開催予定
7月19日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(5) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会 (主査：梶山 昌之 DSR)

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。

現在の学習・研究テーマとしては以下の4つになります。

- ① 要求を仕様化する技術
- ② R言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用
- ④ ソフトウェアメトリクス統計分析

現時点では、「ソフトウェアメトリクス統計分析入門」(小池利和著)の書籍を対象とし、実績を反映したデータに基づく研究を行っています。

この書籍では具体的な事例でメトリクスの活用を学ぶことができます。例えば、

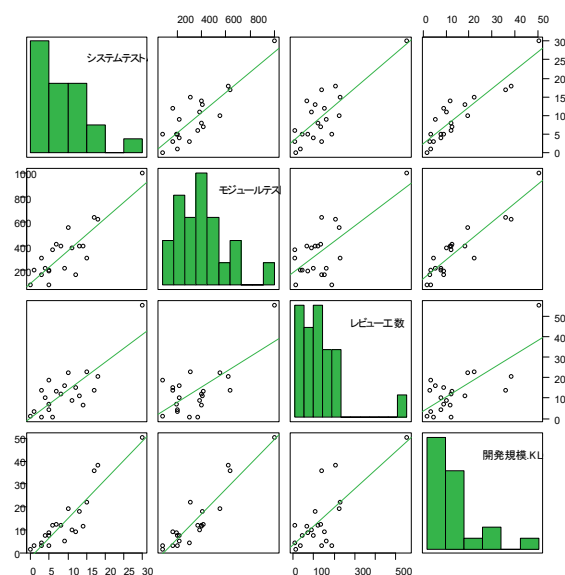
プロジェクトごとに測定された

- ・開発規模 (KLOC)
- ・レビュー工数
- ・モジュールテスト工数
- ・システムテストバグ件数

のデータがある。システムテスト開始時点でシステムテストのバグ件数を予測する式を作成したい。

という課題に対しては、まず、R言語を用いて行列散布図による可視化を行います。

すべての変数が正の相関を持つという欠陥になりましたが、「モジュールテスト工数が大きいほど、システムテストバグ件数が大きくなる」という結果には考察が必要です。何故なら、いずれも開発規模 (KLOC) と高い相関がある量であるためです。偏相関行列を用いた分析の結果、これは疑似相関であることがわかりました。



以上の様な統計の内容は、はじめは難しく感じるかと思いますが、セミナー形式で分かり易く解説していますので、ご安心ください。

要求の仕様化技術を学びたい方、基本的な統計を初歩から学びたい方、または、ビッグデータやAIとそのデータ処理技術に興味がある方には参加をお勧めします。

当研究会では現時点までの活動で、Capers Jones氏の見積りのすべて、Excel統計、コスト評価知識体系 (CEBoK)、要求の仕様化技術、R言語による分析事例、データマイニング手法などのコンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。

また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です。

<4月以降の予定>

5月16日：定例会開催予定
6月13日：定例会開催予定
7月11日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 kajiyama@yhat.co.jp

(6) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会 (主査：中村 太一 国立情報学研究所)

現在、暫定的に隔月の例会開催になっており、3月16日に第40回の例会が開催されました。まず、参加者全員から近況報告を兼ねたフロネシスに関する話題の提供をいただきながら活発な意見交換が成されました。その後、今回のスピーカーとして、メンバーの近藤氏から商社の役割としてのコ

ンフリクトマネジメントについての研究成果の中間報告がありました。二人目のスピーカーとしてメンバーの永谷氏が春季大会で発表したIT紛争から紐解くプロジェクトマネジメントについての研究を共有しました。IT紛争に至る要因として日本のIT業界に特異なビジネス環境（契約の曖昧さ、事より場の雰囲気でのコンフリクトマネジメント・スタイル、ベンダーとユーザー企業の力関係、グローバルプロジェクトの未熟さ）があるとし、プロジェクトマネジメントの効果的な実践力が紛争を避ける対応策となると提案しました。スピーカーからの話題提供を受けて、日本と欧米のコンフリクトマネジメント・スタイル、プロジェクトマネジメント手法の違いなどについてフロネシスの観点から全員で討議しました。

<4月以降の予定>

5月18日：定例会開催予定

7月20日：定例会開催予定

3. その他

活動中の研究会への新規参加や、新規研究会活動に関する問合せは、下記までご連絡をお願いします。

【問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

研究委員会委員長 岡田 公治

研究委員会副委員長 井沢 澄雄

研究委員会委員 高田 淳司